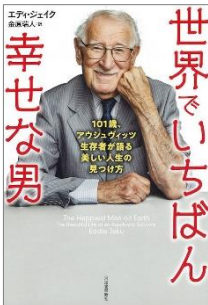


令和 4年度 埼玉県推奨図書



高校生・青年向け

世界でいちばん 幸せな男



エディ・ジェイク／著
金原瑞人／訳
河出書房新社

アウシュヴィッツ生存者のエディ・ジェイク氏が「新しい友へ」と読者に向けて語るノンフィクション。人間としてのモラルと幸せへの希望を失わなかったエディの過酷な体験が綴られる。非人道的行為を絶対に許してはならないと実感する、今こそ読みたい一冊。

ペイント



イ・ヒョン／著
小山内園子／翻訳
イースト・プレス

事情により子供を育てられない親の代わりに国が子供を育てる近未来。そこでは、面接「ペイント（ペアレントインタビュー）」により子供が親を選ぶ。施設の退所年齢が近づく17歳の少年ジェヌは家族について悩み、考える。「家族」について考えずにはいられない作品。

空にピース



藤岡陽子／著
幻冬舎

公立小学校の教師になって5年目のひかり。問題の多い小学校に赴任し6年生の担任となるが、日本語が話せない、授業中に教室を出ていくなど多種多様な子供たちの姿に衝撃を受ける。過酷な環境に負けずに生きる子供たちに寄り添い、困難に向き合おうとするひかり。子供たちにひかりの想いは届くのか。

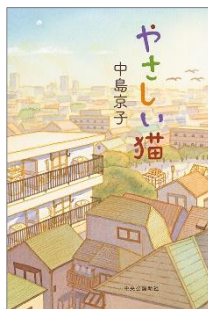
エレジーは流れない



三浦しをん／著
双葉社

土産物屋の息子・怜は高校2年生。さびれた温泉街で、将来の夢もなく漫然と暮らしていた。自由奔放な友人たちとの日常、幼い頃から行き来する2つの家。迫りくる進路選択に、少しずつ自分の思いを口にする。悩み、迷い、されど明るくたくましい青春群像小説。

やさしい猫



中島京子／著
中央論新社

スリランカ出身の自動車整備士クマさんとシングルマザーのミユキさんは震災ボランティア活動で出会った。娘のマヤと3人、家族としての未来を描き始めた3人の前に思わぬ壁が立ちはだかる。家族3人で暮らす、当たり前だと思っていた幸せを取り戻すためにどれだけかかるのか。

「家族」ってなんだろう？
この本はそんな普通が問われる話でした。
頻出する会話文から感じ取れる人間関係が面白く、
巧みな技術も相まって一気に読み進められました。
会話文が多いので テンポも良く、多くの若者が共感できるそんな一冊だと思います。

さいたま市立大宮北高校
1年生

